

2年 外国語活動 学習指導案

「Color & Shapes セタかざりを作ろう」

渋谷区立神宮前小学校

学級 2年2組(34名)

単元の目標(外国語活動)

- 好きなものについて、英語を用いて友達とコミュニケーションを取る楽しさを味わう。
- 色や形の英語表現に慣れ親しみ、自分の欲しい色や形を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- 色や形の表現の仕方を知り、日本語と英語の発音の違いに気付く。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
色や形の英語の表現の仕方を知り、発音したり聞き取ったりしている。	日本語と英語の違いや共有部分に興味をもち、意識して英語で表現しようとしている。	自分が思っている色や形を英語で自由に表現し、自分の作ったセタかざりを英語を使ってすすんで紹介しようとしている。

単元の指導計画(全3時間)



「自ら学びに向かう児童の育成」の実現を目指した学年の取り組み

「自ら学びに向かう児童の育成」というテーマのもと、低学年は、「様々な学習ツールを経験する中で、相手に伝えたり聞いたりすることを通して、様々な考えがあることに気付く、自分なりに整理することができる子」を目指す児童像とした。

低学年では、学習習得・習熟度の向上の流れを4つのステップ「知る・分かる・できる・教える」に分けて考えている。そして、この4つのステップの中の「できる」「教える」へ向かう段階を丁寧に扱うことを通して、児童の学習習得への喜びや達成感となり、そのことが次の学びにつながる主体的な姿勢を育てることができると考えた。

児童の実態として、2年生は知識があることに対し、「もう分かっている」と考えている児童が多く、実際にその知識を活用してみたときに「で

きない」ことに気付く場面に遭遇することが多い。そこで、もっている知識を活用させる場面を意図的に設定し、児童の学習がより深まり、自ら学ぼうとする姿勢が育つと考えた。

本単元「Color & Shapes」では、第1時と第2時で、色と形の単語を再習得する。1年生ですでに学習していた単語であるため、「知っている」、「分かっている」と感じる児童が多い。そこで、ビンゴや形集めゲームをすることで、実際に活用する場面に出会わせる。このことで、自分の言いたいことを英語で表現するために、「いま、自分にとってどのような単語が必要であるか」を実感できるようにし、次時への意欲付けとする。そして、第3時では、習得とした単語を活用したセタかざり作りを提案する。低学年においては、具体物を用いて活動することの良さがある。

そこで、今回はセタかざりは実物の折り紙を用い、作るための単語の復習などにICTを活用することとする。本時のめあてである買い物ごっこを英会話で行うことを先に提示することで、自らICTを使って友達と英単語練習ができるようにする。また、必要性を感じたときにすぐに学べるように、ALTIに聞く以外の手段として、ICTの音声機能を活用していく。

本単元を通して、英語を使って友達とコミュニケーションを取ることに楽しさに気付いたり、またやってみたくて次の学習活動への意欲につながる学びとしていきたい。また、ICTを活用することで、自分の学びの助けになるということにも気づき、積極的にICTを活用していこうとする気持ちを育てたい。

「自ら学びに向かう児童の育成」を実現するためには？

本時の
つながり



本時 (3/3)

ねらい:色や形を英語で伝え合い、七夕作りを通して英語でのコミュニケーションを楽しむ。

	学習内容・学習活動	留意点/教材・教具
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ Greeting 【ALT】 ○ Small Talk 【HRT・ALT】 ・色あてクイズ 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の色や形が答えになるようなクイズにする。 ○英語で話していくことが自然となるようによりたくさん英語の発話ができるようにする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ Words & Chants 【HRT・ALT】 ・歌に合わせて色の単語を発音する。 ・ミッシングゲーム ○ Activity1 【HRT】 ・フラッシュカードゲーム フラッシュカード:オクリンク ポイントカード:紙 ○ Activity2 七夕かざりをつくらう。 ・お店屋さん方式であること、作り方を説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A:Hi. B:Hi. A:What's color? B:Blue diamond please. A:Ok,Here you are. / Sorry,I don't have. B:Thank you,bye. A:Bye.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ Show & Tell ・できた七夕を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの発音をまねるようにし、日本語と英語の違いに意識できるようにする。 ○「分かる」→「できる」になるためのステップとして用いる。1対1で行うことによって、自分の本当の理解度を認識できるようにする。 ○実際の完成したかざりを見せることで、これからの活動することのおおまかを理解できるようにする。 会話文や単語を忘れてしまったときは、PowerPointに入っている音声を手助けの一つとする。 ○最初に隣の人と発表し、全体で数人発表する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ Review ・ふりかえりカードに書く。 ○ Closing 	

単元を貫く授業デザイン/学習環境デザイン

「知る」: 児童の興味関心が高まる出会い

日常生活に英語を取り入れることでより児童の興味が高まる。今回は、クラス児童の「家の笹の葉を持ってきたい」という話を受けて単元のゴールが決定した。授業のSmall Talkの中で、ALTの話す単語から知っている単語を聞き取ったり訳して大意を理解したりすることで、これからの活動への意欲付けをしていく。

児童の意欲
につながる
出会い

「分かる」: 1対1 グループ活動を通して

Words & Chantsの一斉指導だけでは、「分かったつもり」「できるようになったつもり」が多い。そこで、1対1や小グループで学んだ英単語を使ってみることで、自分が言えない単語に気付いたり、友達の発音のよさに気付いたりすることができ、覚えたい、きれいに発音したい等、英語の学びの成長を意識することができると考える。

思考を深める

「教える・説明する」: 発表の場づくり

メインのActivityでは、学習していることや知っていることが、実際にどのように活用できるかを実感できるような場面を設定していく。

本単元では、英単語を活用して友達とコミュニケーションを図る中で、自分の思い通りの七夕かざりを作っていく。自分の思いを説明し、友達に表現の仕方を教えるという交流の中で、自分の学びがより深まる。また、七夕かざりを英語で表現することで、作った充実感を味わえるようにする。

充実感
につながる
表現の場

学びを補助する ICT活用 アプリケーションの活用

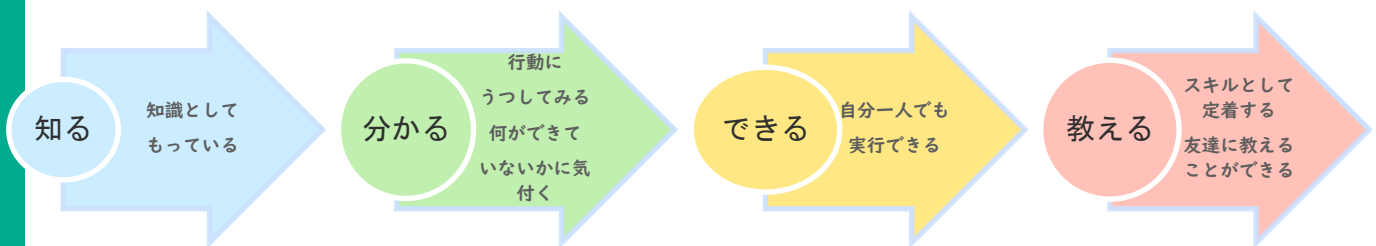
外国語活動全体を通して、ICTを活用していく。低学年では、英単語を書くことが難しい。そこで、ミライシードを使って、自分の表現したい英単語を絵で表現する。

また、音声ツールを活用することで、自分が知りたいと思ったときに単語の発音や英語での受け答えの言い方を知ることができる環境づくりをする。

主な語彙

red	blue	green	yellow
brown	pink	purple	light blue
orange	light green	triangle	heart
circle	diamond	star	square

学習習得の4ステップ



授業観察の視点

- Q: 授業の中で、どのようなつながりが生まれていたか?
- Q: タブレットの活用は、<ちょうどよい>ものだったか?

本時に向けて参考にした文献

文部科学省2018「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語科編」

フィードバックシート

学校名

記入者名

授業者へのメッセージ/フィードバック

【課題の必然性】

○「かざりをつくりたい」「この形が欲しい」という気持ちが強いので、ターゲットセンテンスを発話する必然性が生まれていると感じた。

【お店屋さん活動】

○必要なときに、必要な子だけタブレットで発音確認できていたのはよい。
△発話量を確保するために暇なお店がでないようにする必要がある。

【ICT活用】

△タブレットを使い慣れていない状態で全員にタブレットを開かせておくと、タブレットいじりをしてしまう。画面ロックなどの工夫を教師がしておく必要がある。

○オクリンクをフラッシュカードとして活用すること
担任⇒準備の必要が少ない。
児童⇒1対1で活用することで、発話の機会が増える。
○事前に予習(宿題)、授業後も復習ができる。

自分の授業に活かしたいこと/この授業をもとにした展望

<授業をもとににして>

- 目標達成のための手段を考えて授業構成を考えていくことを大切にしていきたい。
- 教科や学年を問わないオクリンク活用の可能性を考えていきたい。
- 今回の場合、まだオクリンクを十分に活用できておらず、オクリンクで遊んでいる状態も見られたので学年、学級の習熟に応じたICTの活用の方法が必要だと感じました。